

本サービスにおける著作権および一切の権利はアイティメディア株式会社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスの出力結果を無断で複写・複製・転載・転用・頒布等を行うことは、法律で認められた場合を除き禁じます。

松田雅央の時事日想:

放射性物質はどのように拡散するのか——情報開示に消極的な気象庁

<http://bizmakoto.jp/makoto/articles/1104/12/news010.html>

福島第1原発から大気中に放出された放射性物質は大気中をどのように拡散していくのか。放射性物質の拡散を予測した気象データがあるが、このことを知っている人は少ない。なぜなら日本の気象庁が予測データを積極的に開示しないからだ。

2011年04月12日 08時00分 更新

[松田雅央, Business Media 誠]

著者プロフィール: 松田雅央(まつだまさひろ)

ドイツ・カールスルーエ市在住ジャーナリスト。東京都立大学工学研究科大学院修了後、1995年渡独。ドイツ及び欧州の環境活動やまちづくりをテーマに、執筆、講演、研究調査、視察コーディネートを行う。記事連載「EUREPORT(日本経済研究所/月報)」、「環境・エネルギー先端レポート(ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社/月次ニュースレター)」、著書に「[環境先進国ドイツの今](#)」、「[ドイツ・人が主役のまちづくり](#)」など。ドイツ・ジャーナリスト協会(DJV)会員。公式サイト:「[ドイツ環境情報のページ](#)」

福島第1原発から大気中に放出された放射性物質は大気中をどのように拡散していくのか——。放射性物質の拡散を予測した気象データ「放射性物質拡散シミュレーション」があるのを知っている人は少ないだろう。

ドイツ気象局やオーストリア気象・地質局が原発事故直後から最新のシミュレーションを公表し続けているのに対し、[日本の気象庁\(以後、気象庁\)が同様のデータを公開したのは4月4日になってから。それも政府から指摘を受け、重い腰を上げた\(参照リンク\)](#)。さらに、一般公開を前提としていないから情報の分かりにくさにも問題がある。

私たちはこの放射性物質拡散をどうとシミュレーションらえればいいのか。この点について、ドイツ気象局のキルシェ広報課長に電話で話をうかがった。

放射性物質拡散シミュレーションを公表

- [ドイツ気象局\(DWD\)](#)
- [オーストリア気象・地質局\(ZAMG\)](#)
- [フランス放射線防護原子力安全研究所\(IRSN\)](#)

Webサイトのスタートページで公表

松田:お忙しいところ、お時間を取っていただきありがとうございます。

課長:このところ日本から多くの問い合わせをいただいています。

松田:ドイツ気象局ではWebサイトのスタートページに福島第1原発の放射性物質拡散(以後、シミュレーション)を掲載しています。世界的な重要事項であることは確かですが、それでもドイツにとっては他国の事故。あえてスタートページで公表している理由は?

課長:現在はスタートページですが来週(4月10日)からは、下のほうに移す予定にしています。

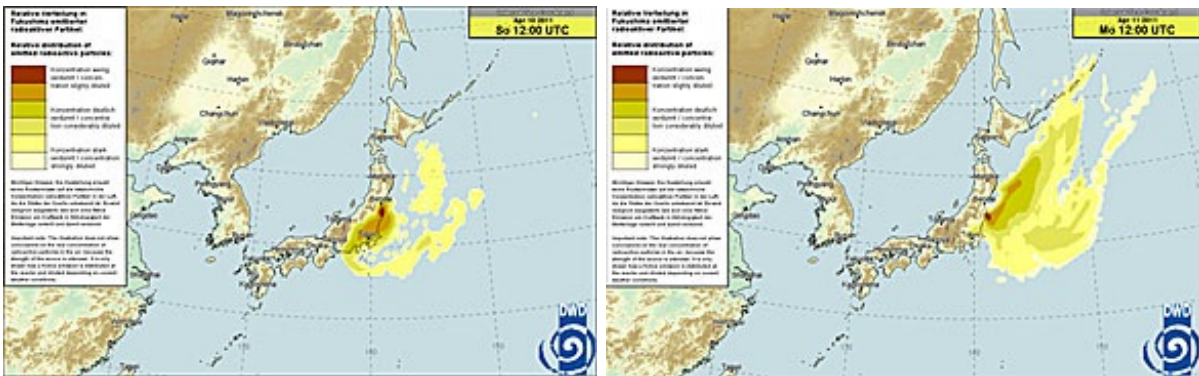
公表した理由はドイツ人も大きな関心を持っているからです。「ドイツにも放射性物質が飛んでくるのか知りたい」「日本に家族や知人がいる」「ドイツの会社が日本で事務所を運営している」といった理由が多いですね。また、ドイツだけでなく他の欧州諸国でも関心が高いため英語版も配信しています。



ドイツ気象局Webサイトのスタートページ。原発事故発生直後から4月10日までのほぼ1カ月間、福島第1原発の放射性物質拡散シミュレーションがスタートページで公表された(出典:Deutschen Wetterdienstes)

松田:シミュレーションは独自のデータから作成しているのですか? それとも日本が発表するデータを利用しているのですか?

課長:我々はインターネットでも公開されている気象データを使用しており、福島第1原発の特別な情報を使っているわけではありません。各国の気象局は日頃から気象情報を発信し互いに情報を共有しているので、その情報を用いて毎日2回シミュレーションを更新しています。



ドイツ気象局の放射性物質拡散シミュレーション。4月8日12時を基点として、10日12時の時点(左)と11日12時の時点(右)のシミュレーション結果(出典:Deutschen Wetterdienstes)

シミュレーションの見方

- (1)ある時点(上の図ならば4月8日12時)で福島第1原発から放射性物質が大気中に放出されたとする。ただし、放射性物質の種類、量、状態(粒子の大きさなど)、放出の条件(蒸気と一緒に爆発かなど)を設定しているわけではない。
- (2)予想される気象条件により、放射性物質がどのように拡散していくかをシミュレーションし、濃度を6色に分けている。色はあくまで相対的なもので具体的な濃度ではない。
- (3)図には以下のような重要注意事項が併記されている。「大気中の粒子の実測値はシミュレーションに反映されていません。また、放出される放射性物質の量も設定していません。原発から放出された放射性物質が気象条件によってどのように薄まるかを示しているだけです」

あくまで参考資料

松田:重要注意事項は承知していますが、例えば日本にいる人が「明日は自分が住んでいる地方に風が吹き、濃い放射性物質が来そうだから不要な外出は避けよう」といった形で利用することは妥当でしょうか？

課長:シミュレーションは概念的な拡散の様子です。放出される放射線の量が、例えば1ベクレルなのか1000ベクレルなのかも不明ですし、あくまで拡散の仕方を予想したものです。住んでいる地域に来る放射性物質の具体的情報に関しては、気象庁をはじめとした日本の現地情報をご利用ください。

これは福島第1原発事故のために準備したシミュレーションプログラムではなく、3~4日後を想定した通常の気象予測の1つです。

松田:[日本の気象庁は、一般公開を前提としたシミュレーションは発表していません\(参照リンク\)](#)。その理由は「仮定に基づくものであって、実際に観測された放射線量などは反映されていません」「極めて粗い分解能で行われているものであり、このため、この結果は国内の対策には参考になりません。」というものです。この点について、どう思われますか？

課長:気象庁の活動については、コメントする立場にはありません。

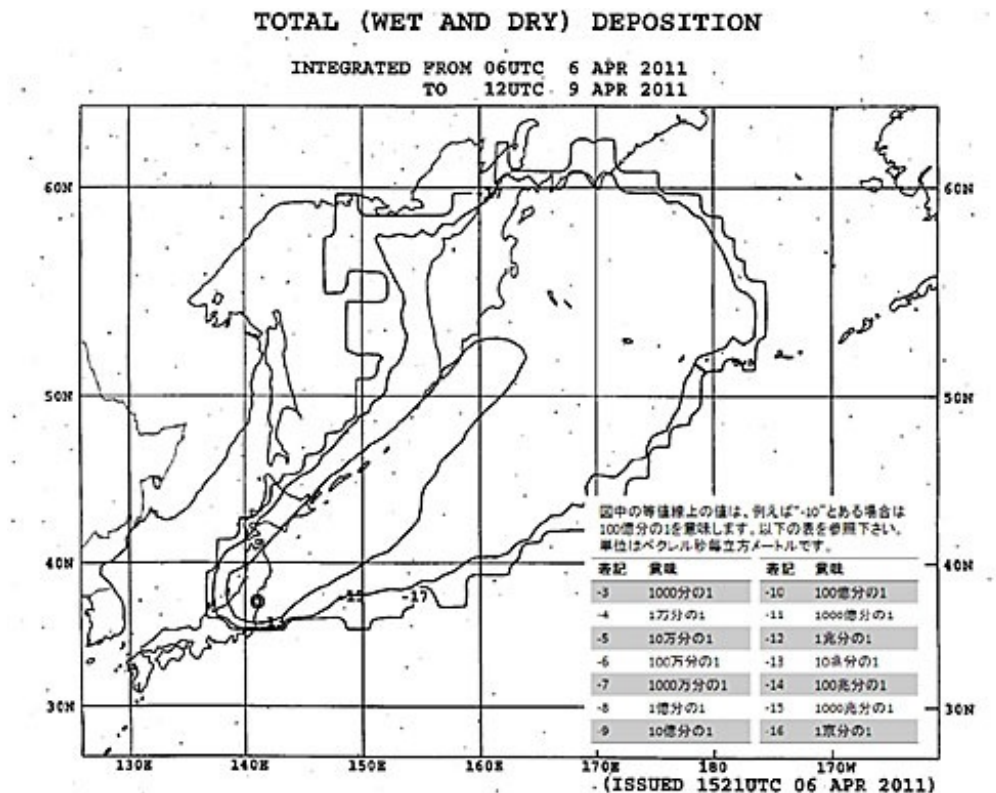
我々が公表しているシミュレーションに関して言えば、降雨予想と同じで100%正しいモデル

というわけではありません。(気象庁の注意事項にある「不確かさ」に関して言えば)そもそも理論的に完全な気象予測はあり得ません。

松田:もし、ドイツ国内で福島第1原発と同様の事故が起きたら、同じようにシミュレーションを公開しますか?

課長:もちろんです。それが我々の義務ですから。ドイツはチェルノブイリ原発事故の際に「情報の混乱」を経験しました。その教訓を生かし、市民の知る権利を守るため情報公開システムの改善に取り組みました。

そもそも気象情報は一般公開されているものなので、(設備とプログラムさえあれば)誰でも同じようなシミュレーションが可能です。秘密の情報でもありませんし、「シミュレーションを公開しない理由」は特にありません。



[日本気象庁がIAEAの指定する放出条件に基づいて放射性物質の拡散を計算した資料\(参照リンク、PDF\)](#)。4月6日16時30分に発表された情報。6日を基点として9日の拡散状況をシミュレーションしたもの。気象庁がIAEA提出用に作成した資料で、一般公開を前提として作成されたものではない。同種資料は3月11日から継続して作成されていたが、4月4日に政府から指摘されるまで一般には公表されていなかった

参考資料でも知りたい

シミュレーションはあくまで気象情報の1つであり、利用に際しては十分な注意が必要となる。不確かではあるが「需要があるから公開する」し、注意事項を併記した上で「その見方、利用の仕方は利用者自身の責任」というのがドイツ気象局の基本的な考えだ。実にシンプルで理にかなった話だと思う。

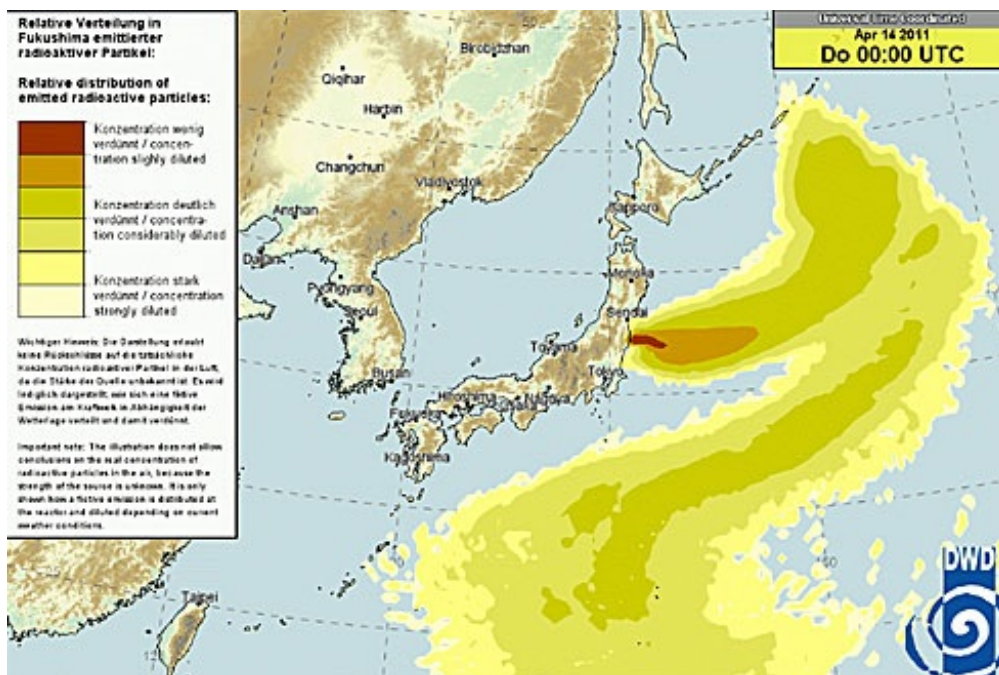
参考資料であってもぜひ知りたい。これが筆者の率直な意見である。

ドイツ気象局のWebサイトについて書くと、何より問い合わせ先を見つけやすいのがいい。また、文字通り回答者の顔が見える仕組みになっていて、回答内容に対する責任の所在をはっきりさせる覚悟がみてとれる。ちなみにドイツの公共機関や大きな企業はWebサイト上で同様の広報窓口を設けるのが常識となっている。

気象庁のWebサイトでもプレス向けのページを探したが見つからず、仕方がないので「ご意見・ご感想」をクリックし、「気象庁に対するご意見・ご感想は、こちらからお寄せください」にメールを送った。筆者の用件はご意見でもご感想でもないのだが、とりあえずこれしか選択肢がない。

試しに英語版も開いてみたが、やはり連絡先は見つからない。日本の報道関係者なら何とかなるとして、もし日本語のできない海外の報道関係者が質問を出そうと思ったら、いったいどうすればいいのだろうか？ 情報の公開度とはいったい何なのか、考えさせられた。

ドイツ気象局にメールを出した同じ日、日本の気象庁にも問い合わせのメールを出し、返事をいただいた。次回、シミュレーションに関する気象庁の回答を紹介しながら、情報開示のあり方について考えていきたい。



最新のシミュレーション（簡易アニメ）。これは3日後までの拡散の様子を6時間刻みで示したものの、主に西から東に吹く風に乗る、太平洋上で拡散する傾向が分かる（出典：[ドイツ気象局の放射性物質拡散シミュレーション](#)）

関連記事



[海外メディアはどう報じているのか？ 東日本大震災の衝撃](#)

東日本大震災の衝撃をドイツのメディアはどのように報じたのか。地方紙は1面に震災の写真に掲載し、ニュース専門チャンネルも震災関連の情報を流している。今回の時事日想は大震災がもたらした衝撃をドイツの視点から報告する。



[海外でのイメージは？ 原発事故を起こした“フクシマ”](#)



原発事故の発生から、1カ月が経とうとしている。海外メディアでも冷静な報道が目立ってきたが、市民の間では「フクシマ＝危険」というネガティブイメージは根強い。こうしたイメージを払拭するにはどのようにすればいいのか。



[不思議の国ニッポンが、好かれる理由](#)

ドイツ人は日本に対し、どのようなイメージを抱いているのだろうか。伝統文化を重んじる一方で、先端技術を誇るハイテクの国。また最近ではサブカルチャーの発信地としても注目を集めているようだ。

関連リンク

[ドイツ気象局](#)

[オーストリア気象・地質局](#)

[気象庁](#)

Copyright© 2012 ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

